

2012年4月3日

# プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2013年4月30日】

団体名 ポケットキッズ

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. プロジェクト名

共有体験から生まれる思いやりの子育て(街プロジェクト)

### 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

専門性、合理性の追求から分離性教育を主とする学校教育の現実化、障害のある子どもを隔離し、直接の関わり、共有体験の機会と与えません。両者は、互いの社会と構成するために支え合い活動が必要で、活動を通じて、互いの思いやりを育み、共生できる社会を作ります。

### 3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

地域の小学校の教室を借り、障害のある子どもが、一緒に楽しい課題に取り組めます。「園子作り」「ふくか(ゆか)でつくろ」識字と、認めると、ゆかを互いにまがります。また、「浅草バスハイキング」では、貸(切り)バスを利用し、家族ぐるみの交流を行います。時間と体験を共有し、相互理解に努めます。

### 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

障害のある子に配慮し、楽しい課題と提案します。また、障害のある子どもと、よりよくつなぐために、年長者を配置します。地域の人、教員、また、教育系的大学生、一般の大学生がボランティアとしてかけ橋になります。障害のある子どもとつながりなく、障害理解者が増え、共生社会の核を養われます。活動と広報、支援者が増えます。

### 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

助成金のおかげで、障害のある子どもが、共に楽しみ、とても有効な交流活動と継続するにつれて、ボランティアの行先と単独に参加している健全な子どもたちと、将来の役割に期待をします。回数と重ねることで、自然な関わり合いができていくと感じています。相互理解、豊かな共生社会の根を築きあげたいと実感します。

### 6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし



桜田先生、あいさつをお願いします。



まずは笑顔のれんしゅうです！  
「わらいましょう！」

# ポケットキッズ 2012. 3. 3 「ふくわじゅつがやってくる！」



ほのぼの一座の皆さん



ももちゃん

ようくん



かねもちささこちゃん



たっくん



きゅうちゃん